

## 日韓発掘調査交流に参加して

奈良文化財研究所は、「日本国独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所と大韓民国国立文化財研究所の研究交流協約書」に基づく大韓民国国立慶州文化財研究所との「発掘調査交流合意書」により、1年ごとに約2ヶ月間、互いの発掘現場に研究員を派遣して、共同発掘調査を続けています。2011年8月24日から10月21日までの日程で渡韓しました。

今年度の発掘調査交流では、馬甲の出土などで有名なチョクセム古墳と、条坊の発見などが続き、注目が集まる新羅王京遺跡の発掘調査に参加しました。これらの遺跡がある慶州では、皇龍寺や雁鴨池など多くの有名な遺跡が集中しており、観光資源としての開発と大規模な発掘調査がめまぐるしい勢いで進んでいます。

発掘現場では、学芸士やそれを補佐する大学院生らと協力し合い、時に発掘の進め方や遺構の解釈などについて議論しながら、調査を進めることができました。両研究所の様々な人が、毎年定期的に行う共同作業や議論を積み重ねながら、時に近づき、時に互いの違いを認識しつつ、交流を重ねていくことが、真の国際交流につながるものと信じます。

また、古都慶州の雰囲気を感じただけでなく、韓国の文化財研究所やそこで活躍する方々をとりまく環境を具体的に知ることができたのは、奈文研としての日韓交流を進めていく上でも大きな財産になりました。受け入れ先の国立慶州文化財研究所の方々はもちろんのこと、このような機会を準備して下さった全ての方々に感謝します。

(都城発掘調査部 庄田 慎矢)



チョクセム古墳での発掘の様子